なんとかなるわよ

お姫(ひい)さま、そして女将へ

立花文子自伝

強靱でしなやかに生きる。

柳川立花伯爵家の１人娘として生れ、
テニス日本チャンピオンに耀き、
３男３女を育て……。
戦後を「御花」の女将として
逞しく時代を生き抜いた
最後のお姫さまが語る
明治、大正、昭和、平成。

海鳥社●定価（本体 2000 円＋税）

なんとかなるわよ

お姫(ひい)さま、そして女将へ

9784874154762

ISBN978-4-87415-476-2

C0095 ¥2000E

1920095020006

海鳥社

定価（本体2000円＋税）

立花文子自伝

旧柳川藩主の立花伯爵家に生まれて戦前まではお姫様と呼ばれて育ち、結婚を期に転勤族のサラリーマンの妻となり、「文子さん」、「立花さん」と呼ばれる六人の子どもの母となりました。私たち旧華族は敗戦後の日本の国自体の大きな転換で、否応なしに一大転機に直面しました。ひょんなことから料亭旅館の女将になって二十五年、柳川弁もちゃんと操れなかった私がいつの間にか、この産土、柳川の地にしっかり根を下ろして生きてまいりました。なんだか、「さすが、明治の女だ」とどなたかの声が聞こえてくるようです。

九十三歳の誕生日を迎えたのが平成十五年（二〇〇三）六月一日でした。どちらかというと辛さよりも、「なんとかなるわよ」と歩いてきました。それはきっと父譲りの楽天性からくるのではないでしょうか。

（本書「序章」より）

海鳥社